

「莉奈」

「身体に気を付けるんだよ
それから何かあったら
すぐ連絡を」

「そんな心配しないで！
上手い事一人でできるし
連絡もするから」

莉奈はこの春から東京の大学に
進学することになった

妻を亡くし、バスの運転手として
男手一つで育てた一人娘の莉奈は
まさに自慢の娘だった

気立てもよく、しっかりした子で
私に負担をかけないよう、東京の
私立大に特待生として入学

そんな娘が旅立ってしばらく
連絡の頻度も少なくなり
娘の近況はすっかり
分からなくなっていた

娘のことだから
上手くやっているだろう
不安に駆られる気持ちを
自分でなだめていたある日

「これ、お前ん所の
娘さんに似てないか？」

同僚に教えてもらった
一本のDVD



卑猥な言葉が並ぶパツケ—ジ
中央には目元が隠された女性

…莉奈?!

驚異の

H 107cm
Cup

いや、娘に限ってこんなこと
あるはずが無い…
あの優しくて頭の良い
親思いの莉奈が…

しかし真偽を確かめるためには
内容を確認するしか無い…

涼風小春

ドツキリ 企画

黒人巨ち○ぽ
未体験

『ちょっと…こんなの聞いてないです』

『だから今回はドツキリなんだつてw』

『今日小春ちゃんにはこちらの男性
とセックスしてもらいますw』

『そんな…撮影止めてください！
いくらなんでも…心の準備が』

『小春ちゃんノリ悪いなあ』

『そんなこと言つてで良いの？
お仕事来なくなるよ?』

『親に迷惑かけれないんでしょ?』

『それは…』

映し出された映像に
言葉が出なかった…

嫌な予感に胸が締め付けられる…
見てはいけない、見るべきではないと
分かっていても、その手を止めることは
出来なかった

「だったら真面目に
仕事してよ」

「この仕事してることに
親にも大学にも
バレたく無いでしょ？」

「わかりました」

「おつw男優さんも小春ちゃんのおっぱいに興味津々だよww」

「ワールドクラスの爆乳だねw」

信じられなかった...
そこには男達に囲まれ
裸にされた莉奈が
座っていた

しかもその横には
自らの男性器を誇示するように
弄び莉奈の体に軽々しく触る
黒人男性...

これから起ころうと
していることを想像するだけで
身が引き裂かれそうだった

ムチッ

モウ...

「それじゃあ小春ちゃん♡
まずはこれでマ○コほぐそうね♡」

うすら笑いを浮かべながら
男たちが卑猥な道具を持ち出す
この後莉奈は男たちに
強引に身体を持ち上げられ...

「はははwww
流石に全部は入らないかw」

「小春ちゃん頑張ってオマ○コ
慣らしておかないとww
その男優さんち○こ
30センチくらいあるからねw」

「このイボイボと返しが引つかかって
気持ちいいでしょ？wほらほらwww」

「小春ちゃん♡カメラに向かって
感想言わなきゃwww女優でしょ？w」



「じゃあいよいよ絡みいこうか！」

「んほお♡だつてwwwwww」
「日本語喋れてないぞww」

身動きの取れない状態で
女性器を乱暴に
弄ばれる莉奈
快楽に歪んだ顔が
画面に大映しされる
軽口を叩く男たちに
怒りがこみ上げる

「んほお♡だつてwwwwww」

「どうかなく小春ちゃん♡
初黒人ち●ぽの具合は?w」

「今まで味わったことないくらい
奥まで入るでしょ?w
ほら感想は?wwww」

三チィ...

「今度は喋れてないよ
小春ちゃんwwww」

「国際交流できて
良かったね♡wwww」

黒人男性は莉奈の身体を
楽しむように自らのモノで
莉奈を突き上げる...
そのたびに莉奈は嗚咽の様な
嬌声を上げ、その反応を
男たちが楽しんだ

大切に育ててきた娘が
男たちの性の捌け口に
されていく

んお♡♡♡

んお♡

おお♡♡♡

んお♡♡♡

ズニ

ズニ

ズニ



「そろそろち●ぽ馴染んできたかな?w」

「小春ちゃん最初は嫌がつてたのに
大分甘い声出始めたね♥」

それが演技なのか…本心なのか
私には分からなかった
娘のこんな醜態を見たことが無かったから
「小春ちゃんどうですか?」
黒人ち●ぽ気持ちいい??」

きもちいです

黒人ち●ぽきもちです

「ははははwwww
良かったねw」

「もう日本人相手だとイケないかもねww
マ●コガバガバになってそうww」

しばらくすると莉奈は
恋人に上げるような
甘い嬌声を出し始めた

「小春ちゃんドツキリ
大成功☆ww」

「今回は
初黒人ち●ぽだけじゃなく…」

「生中出しドツキリ
でした☆wwww」

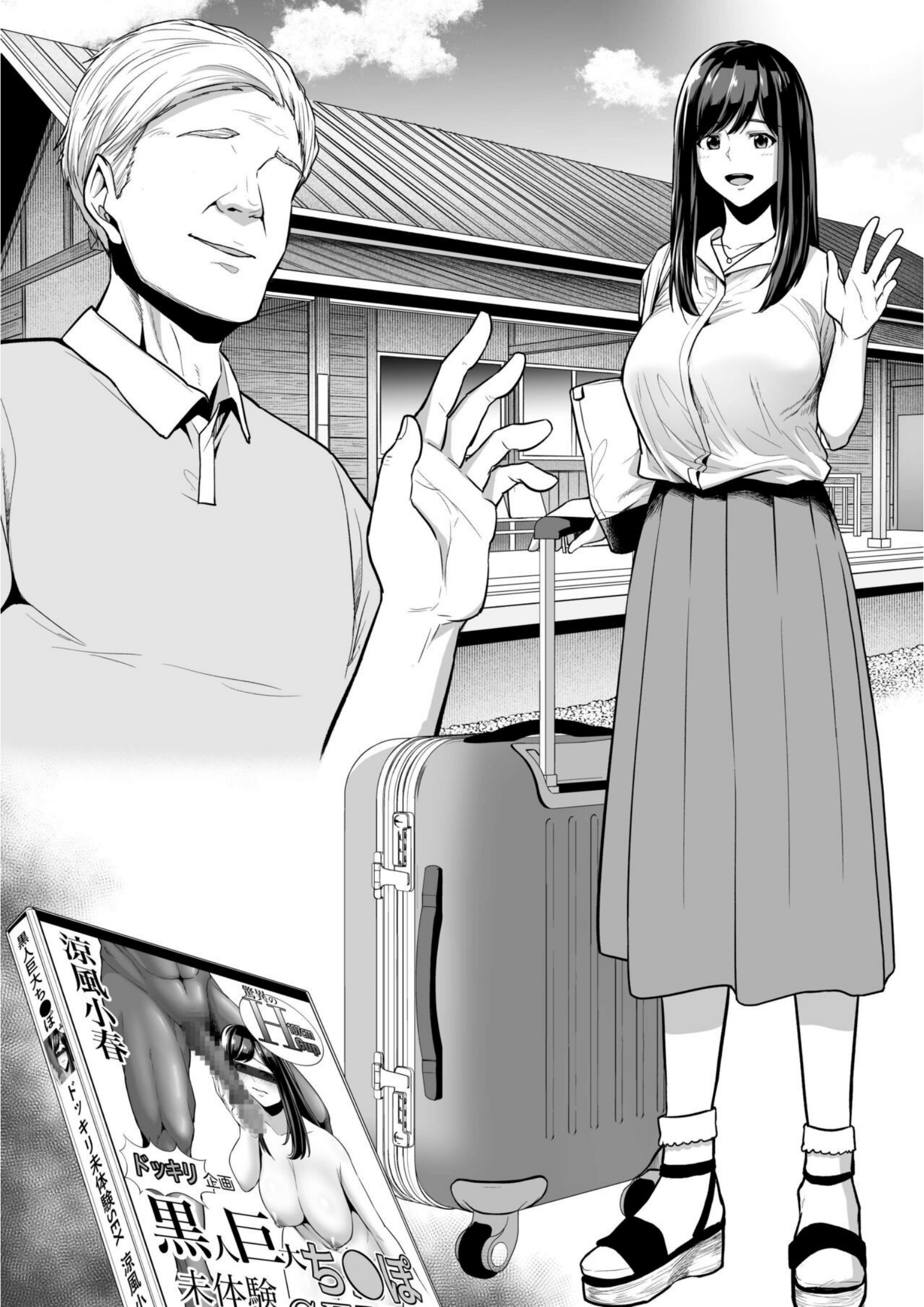
「これでも売れなかったら
もつとハードなのやないとね」
「ボテ腹SEXとか
あとはもう犬とかかなww」

あんなに可愛くて
優しい莉奈が
どうしてこんな道を選
んでしまったのか
私には知る由も
無かった

「今後も頑張っていこうね
小春ちゃん♥ww」

お父さん……
ごめんね……

娘のその姿に……
ただただ涙を流す
ことしか出来なかった



涼風小春

驚異の

H 107cm Cup

ドッキリ 企画

黒人巨大ち○ぽ

来体験













「莉奈」

「身体に気を付けるんだよ
それから何かあったら
すぐ連絡を」

「そんな心配しないで！
上手い事一人でできるし
連絡もするから」

莉奈はこの春から東京の大学に
進学することになった

妻を亡くし、バスの運転手として
男手一つで育てた一人娘の莉奈は
まさに自慢の娘だった

気立てもよく、しっかりした子で
私に負担をかけないよう、東京の
私立大に特待生として入学

そんな娘が旅立ってしばらく
連絡の頻度も少なくなり
娘の近況はすっかり
分からなくなっていた

娘のことだから
上手くやっているだろう
不安に駆られる気持ちを
自分でなだめていたある日

「これ、お前ん所の
娘さんに似てないか？」

同僚に教えてもらった
一本のDVD



そこには胸を露わにした
女性が映っていた

卑猥な言葉が並ぶパツケージ
中央には目元が隠された女性

…莉奈?!

驚異の

H 107cm Cup

いや、娘に限ってこんなこと
あるはずが無い…
あの優しくて頭の良い
親思いの莉奈が…

しかし真偽を確かめるためには
内容を確認するしか無い…

涼風小春

ドツキリ 企画

黒人巨ち○ぽ
未体験

『ちょっと…こんなの聞いてないです』

『だから今回はドツキリなんだつてw』

『今日小春ちゃんにはこちらの男性
とセックスしてもらいますw』

『そんな…撮影止めてください！
いくらなんでも…心の準備が』

『小春ちゃんノリ悪いなあ』

『そんなこと言つてで良いの？
お仕事来なくなるよ?』

『親に迷惑かけられないんでしょ?』

『それは…』

映し出された映像に
言葉が出なかった…

嫌な予感に胸が締め付けられる…
見てはいけない、見るべきではないと
分かっていても、その手を止めることは
出来なかった

「だったら真面目に
仕事してよ」

「この仕事してることに
親にも大学にも
バレたく無いでしょ？」

「わかりました」

「おつw男優さんも小春ちゃんのおっぱいに興味津々だよww」

「ワールドクラスの爆乳だねw」

信じられなかった...
そこには男達に囲まれ
裸にされた莉奈が
座っていた

しかもその横には
自らの男性器を誇示するように
弄び莉奈の体に軽々しく触る
黒人男性...

これから起ころうと
していることを想像するだけで
身が引き裂かれそうだった

4チv

「それじゃあ小春ちゃん♥
まずはこれでマ○コほぐそうね♥」

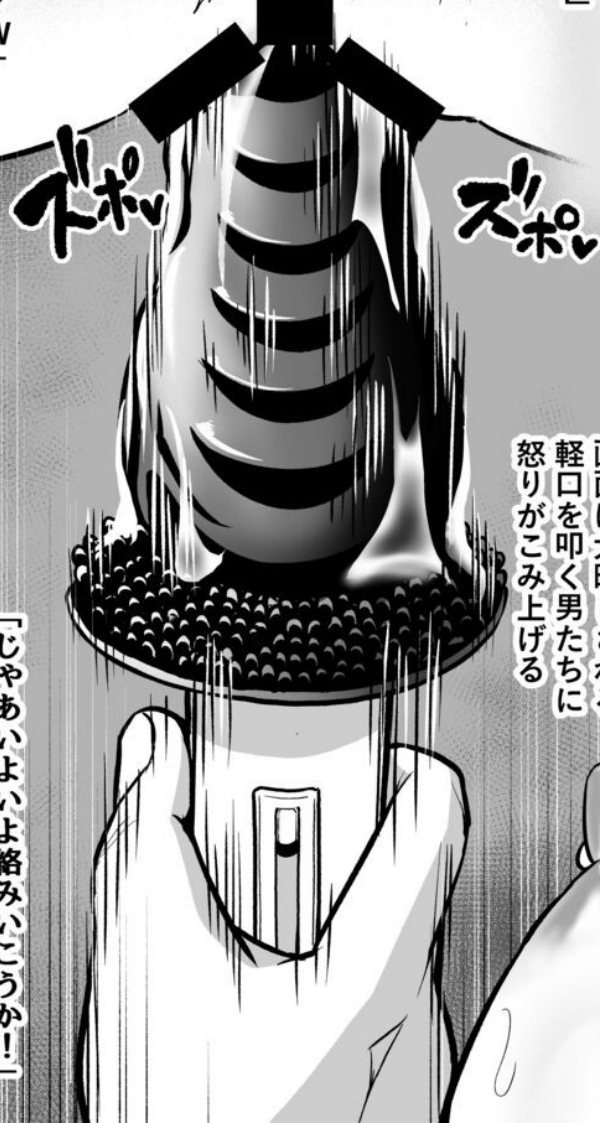
うすら笑いを浮かべながら
男たちが卑猥な道具を持ち出す
この後莉奈は男たちに
強引に身体を持ち上げられ！

「はははwww
流石に全部は入らないかw」

「小春ちゃん頑張ってオマ○コ
慣らしておかないとww
その男優さんち○コ
30センチくらいあるからねw」

「このイボイボと返しが引つかかって
気持ちいいでしょ？wほらほらwww」

「小春ちゃん♡カメラに向かって
感想言わなきゃwww女優でしょ？w」



「じゃあいよいよ絡みいこうか！」

身動きの取れない状態で
女性器を乱暴に
弄ばれる莉奈
快楽に歪んだ顔が
画面に大映しされる
軽口を叩く男たちに
怒りがこみ上げる

「んほお♡だつてwwwwww」
「日本語喋れてないぞww」

「んほお♡だつてwwwwww」

「どうかなく小春ちゃん♡
初黒人ち●ぽの具合は?w」

「今まで味わったことないくらい
奥まで入るでしょ?w
ほら感想は?wwww」

三チィ...

「今度は喋れてないよ
小春ちゃんwwww」

「国際交流できて
良かったね♡wwww」

黒人男性は莉奈の身体を
楽しむように自らのモノで
莉奈を突き上げる...
そのたびに莉奈は嗚咽の様な
嬌声を上げ、その反応を
男たちが楽しんだ

大切に育ててきた娘が
男たちの性の捌け口に
されていく

んお♡♡♡

んお♡

おお♡♡♡

んお♡♡♡

ズニ

ズニ



「そろそろち●ぽ馴染んできたかな?w」

「小春ちゃん最初は嫌がつてたのに
大分甘い声出始めたね♥」

それが演技なのか…本心なのか
私には分からなかった
娘のこんな醜態を見たことが無かったから
「小春ちゃんどうですか?」
黒人ち●ぽ気持ちいい??」

きもちいです

黒人ち●ぽきもちです

「ははははwwww
良かったねw」

「もう日本人相手だとイケないかもねww
マ●コガバガバになってそうww」

しばらくすると莉奈は
恋人に上げるような
甘い嬌声を出し始めた

「小春ちゃんドツキリ
大成功☆ww」

「今回は
初黒人ち●ぽだけじゃなく…」

「生中出しドツキリ
でした☆wwww」

「これでも売れなかったら
もつとハードなのやないかね」
「ボテ腹SEXとか
あとはもう犬とかかなwww」

あんなに可愛くて
優しい莉奈が
どうしてこんな道を選
んでしまったのか
私には知る由も
無かった

「今後も頑張っていこうね
小春ちゃん♥ww」

お父さん……
ごめんね……

娘のその姿に……
ただただ涙を流す
ことしか出来なかった

